

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：北海道開発局都市住宅課
担当課長名：小町谷 信彦

| | | |
|--|---|--|
| 事業名 あおぼどり 青葉通 | 事業区分 街路 | 事業主体 北見市 |
| 起終点 自：北海道北見市三楽町200 至：北海道北見市美山町18 | 延長 0.9km | |
| 事業概要 青葉通は、北見市街を南北に縦貫し、国道39号と北側の環状道路を接続する幹線道路である。当事業は、都市内幹線道路のネットワーク化を図り、沿線の各種公共施設利用者の利便性の向上とともに、安全な生活環境の確保、円滑なモビリティの確保を図ることを目的とした事業である。 | | |
| H9年度事業化 | 昭和26年度都市計画決定 | H11年度用地着手 H13年度工事着手 |
| 全体事業費 | 約16億円 | 事業進捗率 67% 供用済延長 0.6km |
| 計画交通量 | 15,000台/日 | |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) 2.3 (残事業) 5.5 | 総費用 (残事業)/(事業全体) 4 / 15億円 (事業費：4/15億円) (維持管理費：0.00/0.00億円) |
| | 総便益 (残事業)/(事業全体) 22 / 34億円 (走行時間短縮便益：20/32億円) (走行費用減少便益：1.3/1.3億円) (交通事故減少便益：0.29/0.29億円) | 基準年 平成18年 |
| 感度分析の結果 | 交通量変動：B/C=2.5(交通量+10%) B/C=2.0(交通量-10%) 事業費変動：B/C=2.1(事業費+10%) B/C=2.5(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=2.1(事業期間+20%) B/C=2.5(事業期間-20%) | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> 都市の再生（市街地の都市計画道路網密度の向上） 円滑なモビリティの確保（利便性の向上が期待できるバス路線が存在） 安全な生活環境の確保（通学路の歩道狭小な区間に歩道が設置される） 他4項目に該当 | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | 平成18年度に1工区の供用が開始し、全体区間の早期供用を地元住民からも要望されている。 | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 | 平成18年度に1工区590mを供用済。 | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | 平成18年度に1工区590mを完成供用しており、用地補償、工事の進捗は順調であり、予定通り進捗している。 | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | 当事業の整備により円滑な交通の確保を担っている事業の必要性に変化はなく、予定通り事業の推進を図り、平成22年度の事業完成を予定している。 | |
| 施設の構造や工法の変更等 | 建設発生土の他工事盛土材への有効利用や、再生アスファルト混合物の活用など資源の有効活用によりコストの縮減を図っている。 | |
| 対応方針 | 事業継続 | |
| 対応方針決定の理由 | 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。 | |
| 事業概要図 | | |

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。